

平成 30 年度事業報告書

我が国経済は、アベノミクスの取組の下、2012 年末から緩やかな回復を続けており、景気回復期間は、高度経済成長期の「いざなぎ景気」を超え、戦後 2 番目の長さとなりました。その中で我々市民生活に密接な関係を持つ、特に雇用環境の改善が著しい傾向にあることが特徴点の一つとして挙げられます。

全国的に見ると、有効求人倍率では、今回の景気回復局面において、統計開始以降一度も実現していなかった全ての地域での 1 倍超えを 2016 年以降実現しており、引き続き明るい動きがみられています。

一方、労働市場での人手不足感は大変深刻な状況となっており、高齢者や女性の積極的な労働参加による、潜在成長力の強化、所得や消費の底上げなど、経済の持続的な成長は喫緊の課題となっています。

こうした社会経済情勢の中、当センターでは、これまで平成 19 年度から減少が続いていた請負事業が対前年度プラスの実績に転じ、また、労働者派遣事業の契約金額においては、都内のシルバー人材センターの中でトップとなり、都全体の派遣契約金額の 10% に迫る目覚ましい結果を残すことができました。

更に介護予防・日常生活支援総合事業においては、市のふれあい支援制度の推進に向け、ふれあい支援員の養成のため積極的な会員の受講を促し、会員の育成と合わせ、年度当初と比較して飛躍的に契約件数を伸ばすことができました。

会員確保については、会員自身が会員拡大に積極的に参画するという自覚を促すため、会員が、新たな会員を紹介した場合、紹介した会員の所属する地域班の活動費を増額するなどのインセンティブの有る会員紹介制度を当該年度新たに創設しました。加えて、月 2 回の入会説明会、各コミュニティ・センターを会場とした出前入会説明会の実施や、会員配付による入会案内のチラシの各戸配付、市やセンターの行事の場でもチラシやセンター入会案内のうちわを配付するなど、様々な機会を活用してその増強を図ってまいりました。

その結果、高齢や体調などを理由に退会者も一定数ありましたが、全国レベルで見ると会員数が逡減しているシルバー人材センターの中にあつて、過去最高だった平成 21 年度を上回る 1,665 人の会員数を確保することができました。

平成 30 年度は第 3 次中期計画の最終年度にあたり、次期中期計画であ

る第4次中期計画の策定も行いながら、各部会や委員会が実施する各計画の取り組みにより、計画で掲げた3つの重点目標である「就業機会の拡大」、「センター基盤の強化」、「地域社会との共生」の実現に向けた歩みを進めてきました。

こうした事業の取り組みに際し、三鷹市、東京都、国からご理解とともに多大なご支援をいただいたことに深く感謝いたします。

1 事業概要

平成30年度における三鷹市シルバー人材センターの事業概要は、次のとおりです。()内は前年度の実績。

会員数	1,665人 (1,621人)
	男 1,005人(979人) 女 660人(642人)

[請負事業実績]

受託件数	11,100件 (10,959件)
契約金額	5億5,196万円(5億4,473万円)
うち公共事業	1億0,977万円 (1億1,167万円)
うち民間事業	4億4,219万円 (4億3,306万円)
配分金	4億8,425万円 (4億7,894万円)
就業延人員	191,284人 (195,873人)
就業実人員	1,277人 (1,283人)
就業率	76.7% (79.1%)

[派遣事業実績]

契約件数	79件 (59件)
契約金額	7,922万円 (4,174万円)
就業延人員	14,707人 (6,719人)
就業実人員	141人 (100人)

これを前年度(平成29年度)の実績と比べますと、

会員数は44人(2.7%)の増、請負事業の受託件数は141件(1.3%)の増、契約金額は723万円(1.3%)の増で、内訳は公共事業で190万円(1.7%)の減、民間事業では913万円(2.1%)の増でした。配分金では531万円(1.1%)の増で、就業実人員は6人(0.5%)の減となり、就業率は2.4ポイントの減でした。

労働者派遣事業の実績は契約件数20件(33.9%)の増、契約金額は3,748万円(89.8%)の大幅な増となりました。

これまで適正就業による事業見直しにより、長らく契約金額が減少

傾向にありましたが、今年度は5年ぶりに前年度を上回る契約実績となりました。

2 事業報告

(1) 就業開拓提供事業

ア 第3次中期計画の重点目標の中で第一番目に掲げている「就業機会の拡大」については、昨年度に引き続き、就業委員会のメンバーを中心に、担当を決め、市内でもその数が急増している民間の保育施設や高齢者介護施設等を繰り返し訪問して、シルバーの受注実績などを紹介しているほか、大学施設での就業の新規開拓やマンション管理業務、施設清掃業務などの開拓、既存の発注者への訪問活動などを実施し、請負事業及び労働者派遣事業の業務拡大に努めました。特に、公共事業については、市内22校ある小中学校の内、現在9校で受注している学校管理業務について、未受注の学校に対して、既受注校での事業実績を紹介するなど、積極的な業務開拓を進めました。

イ 介護予防・日常生活支援総合事業の推進に向け、公益財団法人東京しごと財団が実施する講座の受講を市のふれあい支援員の資格とみなすよう働きかけるなど、積極的にふれあい支援員を養成し、31人のふれあい支援員を確保しました。これに合わせて契約件数を伸ばし、前年度末の4件から比較して月間の契約件数で45件と大きな伸びとなりました。

ウ 適正就業について、今年度も就業現場の確認や契約書の内容精査を行い、法令の遵守に努めました。

エ チョットサービスの包丁砥ぎは、年々依頼件数が増えており、一部では依頼に对应できない状況も起きています。今後は、新たな担い手の育成と包丁砥ぎ技術の平準化を図り、全ての依頼に対し質の高い仕事が提供できるよう、実施している各班の体制強化と未実施地域への拡充が求められています。

(2) 普及啓発事業

ア 会員増強については、入会説明会に合わせて、市内全戸にチラシを配付した他、市の行事である農業祭や商工まつりなど、人の集まるイベントでチラシを配付するなど、就業等を通して社会参加を希望する高齢者への入会促進に努めました。

イ 会員の丁寧で質のよい仕事ぶりや市内一斉清掃ボランティア活動など、社会奉仕活動への取り組み等を通して地域の住民、事業

所等の信頼を確保し、シルバー活動の普及啓発に努めました。

ウ 見やすくわかりやすいホームページを目指したリニューアルを進めると共に、「広報みたか」等市の刊行物によるPR、パンフレットの配付、会員によるチラシの市内配付、セカンドライフ相談会など他機関との共同PR活動、元気創造プラザホールでのシルバー人材センター展の開催、当センター2階で実施した生涯学習教室の作品展の開催、バスの車内アナウンスによるシルバーのPRなどで、より多くの市民にセンターの存在を知っていただけるよう努めました。

エ 地域班独自の活動として、公園清掃や野川・仙川などの地域清掃ボランティアを実施し、また児童等の登下校に際し安全を見守る安全安心パトロールに多くの会員が参加するなど、それぞれ地域に密着した活動を積極的に行いました。

オ 市民の行事として定着している「三鷹阿波おどり」「三鷹市民駅伝大会」に参加し、シルバーパワーをアピールしました。

特に「第51回三鷹阿波おどり」では、三鷹市議会議長賞を受賞し、シルバー活動の広報に大いに貢献しました。

カ 機関紙「かけはし」「事務局ニュース」「ふれあい」の発行、地域班長会での理事会報告など、会員に対しセンターの活動や会員活動、就業情報の提供に努めました。

キ 植木班では、シルバー活動を広く市役所や公共施設を訪れる市民のみなさまにアピールするため、恒例の正月の門松作りを実施し、市役所、介護老人保健施設や特別養護老人ホームに設置しました。

(3) 研修・講習事業

質の高いサービスの提供を実現し、さらに新たな就業機会を確保するために、東京しごと財団主催の研修など、様々な機会を捉え、研修・講習の受講を促し、その中で会員のシルバー人材センターの理念と会員憲章に対する理解と賛同、併せて接遇や清掃技術など、就業・社会奉仕活動等に必要な知識や技能の修得を目指しました。

また、平成30年度が第4次中期計画の策定年次であることから、理事会と班長会の合同研修において新たな重点目標について議論し、現在のセンターの課題等に対する共通理解を深める場とし、その結果を受け、総務部会で課題を検討することとしました。

地域班長・連絡員会議の場を利用し、センターの各種情報を共

有する研修を行い、今年度新たに地域班長・連絡員になった会員への研修会も実施しました。

ア センター独自の研修事業		参加者数
役員・地域班長研修		
「地域班活動への積極的な参加の推進」		33人
地域班長・連絡員会議研修	4回	453人
新任地域班長・連絡員研修	1回	18人
安全リーダー研修	2回	64人
ホームヘルパー研修	9回	337人
新入会員研修	12回	184人
会員研修「コミュニケーション」	2回	66人
会員研修「安全講話・日常清掃の仕方」	2回	35人
植木班定例研修	10回	270人
イ 合同研修（第5ブロック）		
理事研修「理事の役割と地域班活性化」	11月20日	10人
安全就業のつどい「安全・健康講話」	7月18日	9人
会員研修「膝すっきり講座」	10月18日	9人
ウ 連合及び全シ協主催研修		
新任理事研修	7月25日	3人
監事研修	4月9日	1人

(4) 調査研究事業

ア 第3次中期計画の最終年度であり、計画の総括として、各部会、委員会、職群班等が、計画の円滑な推進に向けた進捗管理と検証を行いました。

イ 適正就業をさらに推進するため、各種業務内容の確認や契約内容の見直しなどを行って、法令遵守に努めました。

ウ 自主事業については、介護保険事業において、関係法令の改正趣旨に則り、介護予防・日常生活支援総合事業の推進に向け、三

鷹ふれあい支援事業の担い手の育成に注力しました。

(5) 相談事業

ア 入会を希望する高齢者に対して、センター施設内で毎月2回の入会説明会を実施したほか、地域に出向いて実施する出前入会説明会も年4回開催しました。入会説明会では、全理事が輪番で先輩会員としての体験談スピーチを行いました。また、随時、市民及び会員を対象とした就業相談を実施しました。

イ シルバー人材センター・わくわくサポート三鷹・三鷹いきいきプラス共催で、セカンドライフ相談会を開催し、定年後の就業や地域参加を希望する市民への支援事業を実施しました。

ウ 未就業の会員の就業を促進するため、就業説明会を3回実施したほか、センター玄関脇の掲示板に就業会員募集案内を掲出して会員への就業情報の提供に努めました。

(6) 安全就業推進事業

ア 東京都全体として、当該年度は前年度に引き続き事故発生件数が高く、安全は、高齢者が就業等の活動を通じて社会参加をするうえで最も重要な課題となっています。当センターとしても、高齢者が健康で安心して就業等の活動に専念できるよう、安全意識の徹底と事故防止に努めました。

安全管理委員会や安全リーダーによる事故防止のための様々な安全施策を講じた結果、平成30年度の事故の発生件数は8件で、前年度より7件減少しました。就業中・就業途上の傷害事故は13件から6件と半分以下に減少しました。ひきつづき、原因の分析を通し、事故の発生防止に努めます。

イ 安全就業のしおり・安全就業基準の配付や、安全標語の募集、安全ニュースの発行、安全リーダー研修の実施等により、事故防止の意識啓発に努めました。

ウ 「健康・安全の日」、「重篤事故防止の日」の就業会員全員を対象とした安全ワッペンの着用による安全意識高揚の取り組みや、安全管理委員会による就業現場への安全パトロールなど、とくに重篤事故の防止に配慮しながら会員の安全就業の徹底に努めました。

エ 安全管理委員会が、随時会員の就業現場の实地調査を行い、就業中の会員の安全に対する意識や実際の安全管理行動を確認するとともに、再発防止に向け、実際に起きた事故の分析やセンターにおける安全就業に向けた取り組みの情報提供を行いました。